

最も大きな特徴は、家の中から高速道路まで乗ったままで移動するために設けられた、X F F Vの要であるフレームとリアホイールの結合部であるV A C（ビークル・アティテュード・コントローラー）でXフレームを挟み込み、前後にスライドすることで車両のホイールベースと車幅を同時に変化させることです。低速走行時に車幅が狭くホイールベースも短くドライバーはアップライトな姿勢でドライブすることができ、車両の周囲やすぐ近くの状況が確認しやすく安全に街中の走行ができます。そして、駐車時はドライバーが降りてからもう一段幅を狭めホイールベースも短く、ミニマムの占有面積で駐車することができます。又、中高速時は速度に応じて車幅が広がり、ホイールベースが伸び、ドライバーも走行速度により車両姿勢を低く安定感のあるドライビングポジションで走行することができ、コーナリング時は車両がリーンし安定感を増すとともに安全にスポーツ走行も楽しむことができます。

動力源は電気モーターを使用し、リアホイールの中にバッテリーと共に収められパワーユニットとして独立しています。そのため、従来の自動車を持っている車中張り巡らされた重いワイアーハーネスがなく軽量化にも貢献しています。バッテリーは2個搭載されており、片側が完全に使い終わってから交換することができます。

シートも車幅の変化とともに幅が変化し高速モードになり幅が広がれば広がるほど座面のファブリックはストレッチされ反発力が強くなり路面の形状が正確にドライバーに伝わり高速ドライビング時の楽しさが倍増します。低速時は逆に幅が狭くなりエアーを入れながら乗り心地の調整を行うことができる可変フレキシブルシートです。座面と第5腰椎部にはたわみを制御するコントロールベルトを内蔵し、理想のドライビング姿勢を作り出しています。もはやシートの中にスプリングもなければ緩衝材もないI Tハンモックで、究極の薄さと軽量のハイテクシートと言えます。

メインフレームは軽くて丈夫なカーボンファイバーで楕円形状を二つ持ちフロントとリアの可動結合部は軽量で丈夫なジュラルミンで構成しました。フロントやリアには各種のセンサーが埋め込まれており、メインのセンサーはフロント構軸まえにインフラとのコミュニケーション・車種間のコミュニケーション・路面状況のセンシング・などその他各種のセンサーを収めました。それ以外のセンサーは、フロントエリアはヘッドランプ部に、後方はリアコンビネーションランプの中に配置しました。センサーやランプ類の表面には金属調の光沢をもちながら電波を通す新しいフィルムを使用し、ランプ部の反射鏡以外の部分に蒸着することなく成立させています。

このように従来の自動車では想像も出来ないほどの軽量化とスペース効率で、しかもドライビングを楽しむことのできる乗り物が提案できました。これはサスティナブルな地球環境を考慮したモビリティとして欠かすことのできないポテンシャルを持つ一台となるでしょう。

この作品は、株式会社フィエロコーポレーション様のお声掛けにより、1/3サイズのモデルを製作していただき、展示することができました。